

大阪インターナショナルチャーチ ゲストスピーカー：眞鍋孝

聖書箇所：詩篇 1 篇、2 篇

2023/02/26

### メッセージタイトル： 「真の幸福への招き」

皆さんおはようございます。世界は混沌とした状況にあります。ロシアとウクライナの残虐な戦争が一年以上も続いており、終息がいまだに見えません。また、新型コロナの疫病が、日本に、そして世界の国々に流行しており、この3年間、数えることが出来ないほど多くの尊い人命が失われ続けて来ています。そのような中、世界の大国である米国と中国が、中国が揚げたと思われる偵察用気球が米軍の飛行機によって撃墜されたことに関して、両超大国に陰悪な空気が漂い始めました。

このように将来に不安材料が一杯あるような世界状況の中で、私たち、今、生かされている人々は自らの人生に関して、何が起こっても大丈夫と思えるような歩みをしてきているのだろうか、と自問することが多いのではないのでしょうか。皆様は、いかがでしょうか。

今日の聖書の箇所は、前回（2022年11月26日）私がこの場で解き明かしたイエス・キリストの「山頂の垂訓」と言われる長い説教（マタイの福音書5～7章）の書き出し部分であるマタイの福音書5：1～12によく似たテーマが展開されています。旧約聖書の詩篇1篇と2篇は、二つの詩篇が連結して一つのテーマを扱っているとも考えられます。両詩篇には、それぞれ表題がありませんし、作者名も記されていません。ダビデ作の詩篇が集められていると考えられている詩篇の第1巻（詩篇1篇～41篇）の中で、冒頭の詩篇1篇と2篇は、著者名がなく、詩篇全5巻の序論部分として編者が記した可能性があります。主の聖霊が、編者にそのように臨み、詩篇全体（150篇）を紹介している箇所となっていると思われます。

詩篇記者は、1篇1節で「幸いなことよ」（新改訳3版）で、この二部作をスタートさせ、2篇12節後半の「幸いなことよ」で閉じています。そこでは、人間の幸いな生き方が的確に紹介され、また、預言されたイエス・キリスト自身が、そのような歩みを可能にしてくださいと御方だという驚くばかりのメッセージが込められているのです。そして、「恐れつつ主に仕えよ。おののきつつ震え、子に口づけせよ。」（詩篇2篇11節）と神の子なるイエス・キリストに対する深い信仰が勧められています。確かに、「主に身を避ける人」（詩篇2篇12節後半）のみが、幸いな人生を頂くことができると説かれています。そして、この幸せな人生は、「流れのほとりに植えられた木。時が来ると実を結び その葉は枯れず そのなすことはすべて栄える。」（詩篇1篇3節）とされているのです。

詩篇2篇、3篇は、キリストの福音宣教の中核宣言である「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」（マタイの福音書4：17）と重ね合わせて理解することが求められま

す。人は、誰であっても創造者なる神の御心に沿った歩みを送らない限り、本当の幸い、幸福を味わうことができない、というメッセージが両詩篇には込められています。

今日の箇所は、人間の真の幸福は、神なる主の教えに従って歩み、主なる神が備えてくださった王なるキリストを受け入れ、その御方を恐れて生きることによって与えられる幸福だということが明らかにされています。

## I 人間の真の幸福は神なる主の教えに従って歩む生活にある（詩篇 1 篇）

イエス・キリストの有名な「山頂の垂訓」の冒頭のおことばも、詩篇 1, 2 篇連作の冒頭のおことばも、共に、「幸いなことよ」、「幸いです」と宣言されています。

この語は、旧約聖書詩篇のヘブル語ではアシュレーが初めと終わりに用いられ、マタイの福音書のコイネーギリシャ語では、マカリオイというギリシャ語が 9 回、マタイの福音書 5 章 3 ~ 11 節の各節の冒頭に「幸いです」（新改訳）の意で出て来るのです。

ヘブル語の「アシュレー」は、原形の動詞語幹アーシャルから派生しており、その原義は、「真っすぐに歩む、前進する」という意味があります。そして、この語が人に適用されると「神様に定められている人としての真っ直ぐな歩み」と考えられます。勿論、このような歩みこそ人の本分であり、神に祝福された幸いな歩みとなるのだと、聖書記者は暗に主張しているのです。

このヘブル語の「アシュレー」は、旧約聖書では、数多く用いられているが、その中でも詩篇記者は、山頂の垂訓と同じような詩形式で、次のように語っています：

幸いなことよ。悪しき者のはかりごとによらず、罪人の道に立たず、嘲る者の座に着かない人。（詩篇 1 : 1）

幸いなことよ。すべて主に身を避ける人は。（詩篇 2 : 12）

更に詩篇 3 2 篇 1, 2 節では：

幸いなことよ。その背きを赦され、罪をおおわれた人は。（1 節）

幸いなことよ。主が咎をお認めにならず、その霊に欺きがない人は。（2 節）

と記されています。

## II 人間の真の幸福は父なる神から遣わされた子なるイエス・キリストに寄り頼んで歩む人生にのみ与えられる（詩篇 2 篇）

詩篇 1 篇には二種類の人間の道が明らかにされています。すなわち、「悪しき者のはかりごと」、「罪人の道」、「嘲る者の座」、「罪人」（1 篇 1, 4, 5, 6 節）と、「正しい者の集い」、「正しい者の道」（1 篇 5, 6 節）であり、後者の種類の人間になるようにとの勧めがあります。人は、誰であっても、どちらかの人に属することになるのです。どちらかの道歩むことになるのです。どうすれば、「正しい者」としての道を選び、幸せな人生を送ることができるのでしょうか。

詩篇2篇は、悪しき者、罪人は主と主に油注がれたキリストに敵対し（2篇1～3節）、父なる神が備え定められた子であり、王であるキリスト様を受け入れることなく、この救い主として、また、裁き主として立てられた御方、キリスト様を退ける者は、厳しい裁きを受け滅びの道を歩むことになる（2篇9節～12節前半）とされています。一方、この御方を受け入れ信頼して歩むものは、この地の良きものを頂く幸いな生活が与えられる（2篇8節、9節）ことが解説されています。「恐れつつ、主に仕えよ。おののきつつ震え、子に口づけせよ。」（2篇11節）は、まさしく主イエス・キリストに信頼して従順に歩む人生があることを示唆しているのです。

後に、新約聖書時代に聖霊に導かれた新約聖書記者達が、詩篇2篇がまさしく、イエス・キリスト様を明確に預言しているとしています。新約聖書の使徒の働きの中で、ピシディアのアンテオケで使徒パウロは、イエス・キリストの福音を弁証し、次のように語りました：

「私たちがあなたがたに、神が父祖たちに約束された福音を宣べ伝えています。神はイエスをよみがえらせ、彼らの子孫である私たちにその約束を成就してくださいました。詩編の第2篇に「あなたはわたしの子。わたしは今日、あなたを産んだ」と書かれているとおりです。」（使徒の働き13章32、33節）

また、へブル人への手紙の中で、聖書記者は、次のように語っています：

「神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られましたが、この終りの時には、御子にあって私たちに語られました。神は御子を万物の相続者と定め、御子によって世界を造られました。御子は神の栄光の輝き、また、神の本質の完全な現われであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。御子は罪のきよめを成し遂げ、いと高き所で、大いなる方の右の座に着かれました。御子が受け継いだ御名は、御使いたちの名よりもすばらしく、それだけ御使よりもすぐれた方とされました。神はいったい、どの御使いに向かっていわれたのでしょうか。「あなたは、わたしの子。わたしが今日、あなたを生んだ」と。またさらに、「わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる」と。（へブル人への手紙1章1～5節）

詩篇2篇は、まさしく後に来られるイエス・キリストを預言したのです！

## 結語

このキリストの教えに従って生き、信頼して歩む道のみが、キリストによって父なる神からアシュレー「幸い」をいただける唯一の道です。

主イエス・キリストも新約の使徒ヨハネを通して次のように、私たちに招いてくださっているではありませんか。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」（ヨハネの福音書3章16節）